

消 息

宗田一先生合同追悼会

去る一九九六年七月七日忽然と死去された宗田一常任理事の追悼会は、同年一月二二日の月例会にひきつづき、本学会と日本薬史学会、洋学史学会との合同で順天堂大学医学部において開催された。

第一部は小曾戸洋本会理事の座長による三氏の追悼講演であった。長門谷洋治会員の「宗田先生の経歴と業績」は、短時間では語り尽くせない先生の多くの業績リストを示しながら、多彩な経歴にふれた講演であった。大塚恭男会員の「宗田先生を偲んで」は、学問の場ばかりでなく私的な交際からもおおくの影響をうけたことを懐かしげにかたつた。青木允夫会員の「宗田先生の思い出」は、薬学史という同じ領域の後輩として、またくすり博物館の開設、運営にあたっておおくの助言や指導をうけた思い出をかたつた。

一人の持ち時間がわずか一〇分というきわめて短い時間で、とても語り尽くせるものではなかったろうが、それぞれの演者の持ち味を生かした味わい深い講演であった。

講演にひきつづき、有山記念館地下食堂に会場をうつしての追悼会(第二部)が、同じく小曾戸理事の司会で午後五時からひらかれた。故宗田先生のご令室と子氏が、体調を崩されてご出席が叶わなかったのは残念であったが、本学会蒲原宏理事長をはじめ、日本薬史学会柴田承二会長、洋学史学会石山洋会長から、あらためて先生の豊かな生涯と業績にたいして賞賛の言葉がささげられた。

その後は各学会に属する会員がこももたつて、生前の先生をしのぶ言葉を静かにかたつて、この日参加した百名あまりの人びとに、幅広い先生の活躍ぶりをあらためて回想させるにふさわしい追悼の会であった。

(深瀬 泰旦)

